

第5号

定価1年間300円
組合員の購読料は
組合費に含む



発行 檜山教職員組合

〒043-0056 江差町字陣屋町 86-1
Tel 0139(52)0858 FAX (52)1490
発行責任者 石橋英敏
E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp

教育にとって大切なものは何？

～人として、幸せを求める「本能」を問い直す～



教育のつどい

教育研究全国集会2014 in 香川

「教育のつどい2014 in 香川」が、八月一六～一九日、香川県高松市で、小雨が混じる中開催されました。三日間でのべ約五〇〇〇人の教職員、父母、市民などが参加し、七つの教育フォーラム、二八の分科会で熱い討論と交流が行われました。

檜山教組からは、レポーターとして、大口加代子さん（若松小）、滝澤圭さん（河北小）、司会者として内糸俊男さん（江差北中）、道教組教文担当として中山晴生さん（本部）が参加しました。

開会集会では、現地の大学生有志によるヒップホップダンス、高松空襲の手記の朗読、「カンカン石」によるサヌカイト演奏、参加者全員で「故郷」の合唱など、様々な世代の参加者が共有できるものとなっており、心が和むオープニングとなりました。

その後、いわさきちひろさんのお孫さんにあたる、絵本作家の松本春野さんと、東京大学教授・九条の会事務局長の小森陽一さんの「いま、憲法を守り、生かすー福島、平和、子どもたちに思いを寄せてー」という対談がありました。松本さんの、しなやかで、みずみずしい感性を小森さんが上手く引き出し、人として、幸せを求める「本



能」を共有していくことの大切さを紐解くような対談になり、参加者の共感を呼びました。

オーラムが開催され、「安倍教育再生」で噴出する問題点や教育の原点を確かめ合い、様々な課題を考え合うような話し合いがすすめられました。

二・三日目は、高松駅前の「サンポートホール高松」会場を中心に二八の分科会が開催され、熱心な学び合いが行われました。また、二日目の夜には、道教組・高教組合同の参加者交流会が催され、一八名が参加しました。自己紹介を中心に個性ほとばしるトークもあり、初対面がほとんどの中、少しですが、お互いをわかり合える空間となり、大いに盛り上がりました。

天候の悪い中、警備、道路や会場の案内など実行委員会の方々の尽力は、相当なものでした。このような支えの中、成功で幕を閉じられた「教育のつどい」は、来年度に引き継がれます。



評議委員会開催

さる、六月二十七日、檜山教職員組合は、第一回評議委員会が行われました。各支部選出の評議委員が出席し、決算の承認、取り組みの経過と当面方針の検討を行い現場の実情や課題、教職員組合としての取り組みが報告されました。

一般経過では、全国的に広がる健康を害するまでの異常な時間外勤務の実態や子どもたちの学ぶ意欲を蔑ろにし、「学テ向上路線」に偏った教育政策の問題、査定昇給

に立ちました。討論は主に、学校や子どもたち、父母と地域の課題と現状を掘り下げる内容で、経過と方針を現場の「生の声」で深めるものとなりました。とりわけ、健康で働きつづけるための「生活と権利を守る」取り組みは、喫緊の課題として位置づけられるものとなりました。この様々な「声」が束ねられ、やがて要求にまで高められ、少しずつ前進していくことを確かめ合い、評議委員会を終えました。

第1回 評議委



討論に立つ 前田さん

制度など、情勢を踏まえた教育課題などの報告がありました。その後、当面方針の提案を受け、評議委員が討論

石橋英敏委員長あいさつ(要旨)
安倍内閣は、集団的自衛権の行使を容認する憲法解釈の変更を7月に閣議決定し、国会で関連法案を成立させようとしている。政府は、従来から「集団的自衛権の行使は、これを超えるものであって、憲法上許されない」と解釈してきた。憲法解釈により集団的自衛権の行使を認めることは、多くの専門家が「憲法9条の存在意義をほとんど無にすることで、政治権力を制約するという立憲主義を覆えすもの」と述べている。国際世論は非暴力と平和の外交努力を求めている。それこそが、日本国憲法第9条の示す、平和を築く道すじではないか。
また、地方教育行政法「改正」案の採決が強行され可決。戦後、地方教育行政は国からも首長からも独立した制度として確立してきたが、今回の「改正」は、教育を「時の権力」による政治支配を強化するものとなっている。
安部内閣は、侵略戦争を美化する教科書の採択や道徳の教科書化なども教育の政治支配のねらいと軌を一にするもの。私たちは、戦後、「子どもたちを二度と戦場に送らない」ことを旗に掲げてきた。若者を戦場に送り、命を脅かす企てを絶対に許すわけにはいかない。最終的に政治を決めるのは主権者である国民と世論と運動。いまこそたたかいを強め広げたい。

道南母親大会に参加して

湯ノ岱小学校 市来成子



6月29日、道南母親大会に参加してきました。

毎年、高橋和子先生が参加し、檜山教組も何らかの役割を担っている大会で、今年は第54回の大会でした。私は大会のメッセージを読むという役割だったので、前の方に座っていました。これが、良かったのです！

開会式の後、早速講演でした。講師は奈良県で心療内科を開いている医師の田中茂樹さんという方でした。『子どもを信じること』という演題での講演でした。「よくある演題だな…」と思いきや、出だしから目から鱗の話。前で聞いてた私は、スクリーンをメモしつつ、先生の話に釘付けでした。

「愛情」と「甘やかし」の違い。何だと思いませんか？

その先生曰く、「甘やかし」は、子どもに行動を指示するものなのだそうです。「勉強したの?」「〇〇したら?」などという声かけもすべて甘やかし。なので、教師の間ではある意味、批判を受ける話かもしれません。だって、子どもの親たちに「宿題は?とか声かけしてあげて下さい。」なんて言いますよね。甘やかしだそうです。

『愛情』は、子どもの進む方向を指示しない、進むか進まないかさえも子どもにまかせて見守る姿勢、だそうです。(なかなかなかなかできませんが…)子どもはどの子も、「自分を幸せにしようとする本能」を持っているのだそうです。そして不登校になるには、意味があるのだと。だから、親はだまって見守ってあげることが本当の愛情だと先生は言います。

終始、自分の子どものことを思いながら、私は、ずーっと甘やかしばかりをしてきたのか…と思って聞いていました。近くだったので、最後に質問もさせてもらいました。今回、本当に自分にヒットした講演で、本まで注文してしまいました。本がきたら、また先生の話の思い出しながらじっくり読みたいと思います。

平和を考えるつどい part1

行先ボランティア 高遠菜穂子さんを迎えて

「イラク戦争の子どもたち」

昨年、現地の病院に住み込んで実施した新生児の調査を通して見えてきたことは、自然の摂理ではありえない高い割合の出生異常でした。現地では、その子どもたちを救うべく医師たちが奮闘していました。しかし、今年一月から現地は再び連日の空爆で焼かれ、今も子どもたちの命が奪われ続けています。イラクの最悪の事態は何から生じたのか。一五〇万人を超えた国内避難民の緊急支援現場の様子も合わせてお伝えします。(高遠)



9月17日(水)
18時30分～
江差町追分会館
(資料代として500円)

「南ひやま9条の会」よびかけ人・平和を考えるつどい代表・上野秀勝(0139-52-3651)

『南ひやま9条の会』

入会のお誘い

◆日本国憲法と9条が危ない！

1999年に結成された「9条の会」は、アピールの結びで、「日本と世界の平和な未来のために、日本国憲法を守るという一点で手をつなぎ、改憲のくわだてを阻むため一人ひとりができるあらゆる努力を」と呼びかけました。その日本国憲法と9条が破壊されようとしています。

◆戦争する国づくりの日本国憲法・9条破壊は許さない！

私たちは、憲法と9条壊しのくわだてを許してはならないと思い、ここ南ひやまの地に「9条の会」を立ち上げ、9条をまもり、日本国憲法をくらしに生かし、平和を次代に引き継ぎたいと思いました。

◆思想、信条、政治的立場をこえ、「南ひやま9条の会」で一緒にがんばりましょう！

南ひやま9条の会 よびかけ人 代表 上野秀勝

訂正

8月30日(土)の檜山合同研究集会～領域問題別集会～開催要項に記載されている分科会「教育条件整備」は、10月4日(土)厚沢部集会で行います。ご了承ください。

どなたでも「9条の会」に入会できます。

入会を希望される方は、檜山教職員組合でも受け付けています。「入会希望」と下記までご連絡ください。

電話：0139-52-0858

携帯：090-8904-4710

メール：hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp